

社会科（地理）学習指導案

指導教諭 氏名 教諭 [REDACTED]
教育実習生 氏名 [REDACTED]

1. 日時・学級 平成 29 年 6 月 6 日（火）第 3 時限・中学 1 年 D 組 教室

1 年 D 組 42 名（男 18 名、女 24 名）

2. 単元名 第 2 章 人々の生活と環境 ①地域によって気候が変わる

3. 単元設定の理由

○単元観

本単元は、学習指導要領の内容として「世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然および社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる」としている部分を取り扱う。

学習内容としては、例えば暑い地域と寒い地域、山岳地域と島しょ地域など、特色のある自然環境とそれに関係する衣食住を事例として取り上げ、また世界の主な宗教の分布について理解させることが重要とされる。

○指導観

世界の人々の生活や環境の多様性を理解させるというねらいに基づき、次の学習単元である世界の諸地域で取り上げる事例とも合わせ、一部の地域に偏ることがないように配慮する必要がある。また世界の自然的条件を取り上げるにあたっては、人々の生活に関する学習を中心とし、それに関する範囲で扱うとともに自然的条件の違いのみに着目したものにならないようにする。社会的条件としては、地域の歴史的背景や住民の民族構成などに配慮しながら、伝統的な生活様式がほかの文化との接触や新しい技術の導入、経済活発化によって変容することを理解させたいと考える。

○生徒観

1 年生は、小学校で学習した内容が印象強く残っており、特に地理的分野では小学校 5 年生で学習した日本の特色について覚えている生徒が多い。しかし、中学校では日本だけでなく世界にも目を向けるので、自然的条件では日本の気候の特色と世界の気候の特色の共通点に着目し、さらに深い知識を身につけさせたい。社会的条件では日本の伝統的な風習に触れながら、最終的には海外旅行の計画が立てられるようにする、といったゴールを設定し、気候や生活から服装はどうするのか、産業面から食事やお土産はどうするのか、文化、歴史の面からどこを観光しようかといった興味を持たせたい。

4. 単元目標

- ① 特色あり自然環境と、それに対応した人々の暮らしと文化を理解する。
- ② 世界の気候帯別に各地の様子を知り、それに基づいてその地域に居住する人々と多様な自然環境のつながりを理解する。
- ③ 言語と宗教から見た世界の違い、一国の中での違いを理解する。
- ④ 自分たちが暮らしている自然や社会の環境を相対化させ、身近な生活環境に着目しながら理解を深める。

5. 単元計画（9時間）

- ① 地域によって気候が変わる 2時間……うち後半1時間が本時
- ② 赤道に沿った暑い世界 1時間
- ③ 植物の少ない乾いた世界 1時間
- ④ 季節の変化が明らかな世界 1時間
- ⑤ 氷と白夜の世界 1時間
- ⑥ 標高が高く空気の薄い世界 1時間
- ⑦ 様々な言語と人々の暮らし 1時間
- ⑧ 様々な宗教と人々の暮らし 1時間

6. 本時

(1) 指導目標（到達目標）

- ・五つの気候帯の地図上の分布について理解し、気温と降水量のグラフを正確に読み取ることができる。【知識・理解】
- ・世界の大陸別の気候帯の分布について関心を持ち、植生と気候帯の関連性について追究し捉えようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・気温・降水量の高低差がどのような原因から成り立っているのか考えることができる。
【思考・判断】

(2) ねらい

- ・本時は他の単元と違い、2時間かけて学習するので、前回の授業で学習した雨温図と気候帯の関係性を明らかにする。
- ・地球上のどこにどんな気候が分布しているのか暗記させるのではなく、その理屈を図示し生活に身近な具体例を挙げながら理解しやすくする。

(3) 使用教材

- ・教科書 『中学社会 地理 地域に学ぶ』（教育出版）、P.24、P.25
- ・資料集 『世界の諸地域NOW 2017』（帝国書院）、P.29、P.30
- ・地図帳 『中学校社会科地図』（帝国書院）
- ・ワークシート 1枚

(4) 学習の展開 (指導過程)

過程 (配当分)	学習活動	教師の支援 指導上の留意点	評価
導入 (6分)	<ul style="list-style-type: none"> ・教材、ノートの準備確認 ・挨拶 ・出欠確認 1 前回の授業の復習 <ul style="list-style-type: none"> ・気候、気候帯、雨温図の意味の確認 ・雨温図の読み取り方を再度確認 ワークシートの答え合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・机上に教科書、資料集、地図帳、ノートの4点セットが出ているか、授業を受ける態勢になっているか確認する ・正面を向いて元気よくあいさつを行う ・「姿勢を正して」のところでほかの作業をやっている生徒がいないか確認する ・意味が曖昧だった生徒に対して意味の部分にマーカーペンでアンダーラインを引かせるように指示 ・ワークシートに注目させる 	
展開① (11分)	<ul style="list-style-type: none"> 2 気候帯はどのように分けられている？ ・教科書 P. 24・10, 11 行目をアンダーライン引く ワークシート1と植生の意味を板書 <ul style="list-style-type: none"> ・植物に関係のある条件は？ ワークシート2気温と3降水量を板書 発問① 気温と降水量のグラフってなんという名前？ →雨温図 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布 ・のりで貼る時間をとる ・教科書とワークシートが貼られたノートを開けさせる ・教科書ページが開いてあるか確認 ・ワークシートに注目させる ・いったん手を置いて前に注目させる ・雨温図で気候を区分できるのは、気温と降水量がわかるからということ強調 	<p>気温・降水量の高低差がどのような原因から成り立っているのか考えることができる。</p> <p>【思考・判断】</p>

<p>展開② (17分)</p>	<p>3 気温の高いところ、低いところはどこか</p> <p>発問② 日本の中で暖かい、寒い都道府県は？ →沖縄、北海道</p> <p>発問③ ではなんで北海道は寒くて、沖縄は暖かいのだろう？ →北海道は緯度が高く、沖縄は緯度が低い</p> <p>・ワークシート4、5を埋める</p> <p>板書① (太陽熱の受け方) ・ワークシート6、7を埋める</p> <p>板書② (プールサイド・気温の日較差、年較差) ・海岸砂漠、雨陰砂漠の説明のアンダーライン</p>	<p>・発問、スライド、ワークシートが続くので、作業に追いついていない生徒はいないか確認</p> <p>・板書するので注目させる</p> <p>・ワークシート (2)、(3) 両方の6、7を埋めるよう指示</p> <p>・板書するので注目させる</p> <p>・身近な具体例を挙げる (プールサイド)</p> <p>・砂漠の説明は資料集 P.29 のトピック⑧、⑨の部分に着目させる</p>	
<p>展開③ (13分)</p>	<p>4 気候帯の種類</p> <p>・ワークシート8~12を埋める</p> <p>・熱帯、温帯、冷帯はどのように分けているのか説明</p> <p>発問④ 5つの気候帯の中で、地球上の陸地面積が一番広いのは？ →乾燥帯</p> <p>発問⑤~⑦ (最後の1つは写すだけ) 続いて陸地面積が広いのは？ 冷帯、熱帯、寒帯、温帯の順でスライドを見る</p>	<p>・気候帯は大きく、植物が育つか育たないかで決まることを理解させる</p> <p>・最寒月の気温によって分けられていることを板書し、写させる</p> <p>・スライドを見せる</p> <p>・アフリカ、オーストラリア大陸の衛星図を見せて、砂漠が全体的に多いことを理解させる</p> <p>・スライドを見せる</p> <p>・資料集 P.26-33 を開けるよう指示、気候帯ごとにページを変えて見させる</p>	<p>5つの気候帯が地図上のどこに分布しているか理解させる【知識・理解】</p>

まとめ (3分)	<ul style="list-style-type: none">・本時の要点をまとめたスライドを見せ、復習する・ワークシートが一番下の豆知識に着目する	<ul style="list-style-type: none">・視覚的に理解させる・鳥取砂丘は砂漠ではないことを乾燥帯という気候帯と関連付けて理解させる	
-------------	--	--	--